

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ボランティア概論 Introduction to Voluntary Action		1年	後期	別途、時間割表参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
なし。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
なし。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
松崎勇人	本館2階	月曜の3から4時限、 火曜の3から5時限	授業中に指示します	
授業の概要				
ボランティア活動の大切さを知り、より良い社会を作るために何ができるかを考えて、自らボランティア実践できる様な態度を育成し、ボランティア活動に関する基本的知識を理解させる。				
授業の到達目標				
①ボランティアとボランティア活動の意味を分かるようにする。 ②ボランティア活動の機能による分類の意義が分かるようにする。 ③特定非営利活動促進法を理解できるようにする。 ④ボランティア・コーディネーターの意義が分かるようにする。				
授業の方法				
講義形式で行うと共に、あるテーマについてのディスカッションを行い、自ら考え実践できるようにする。				
学習の成果				
この授業を履修すると、あなたは ①ボランティアとボランティア活動の意味が分かるようになる。 ②ボランティア活動の機能による分類の意義が分かるようになる。 ③特定非営利活動促進法を理解できるようにする。 ④ボランティア・コーディネーターの意義が分かるようになる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	ボランティアの理念			
第3回目	ボランティアの今日的意味			
第4回目	ボランティア活動の分類			
第5回目	ボランティア活動の現状			
第6回目	NGOとNP0 1、 概念整理 世界のNGO			

第7回目	NGOとNPO 2、日本のNGO、NPO	
第8回目	NPO法 1	
第9回目	NPO法 2	
第10回目	ボランティア・コーディネーターとボランティア・アドバイザー	
第11回目	ボランティア活動の動機	
第12回目	企業のフィランソロフィー（慈善事業）	
第13回目	ボランティア学習の楽しさ	
第14回目	これからの福祉社会	
第15回目	定期試験とまとめ	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験	70%	到達目標に示した内容に関する基本的事項を理解できたかどうかをペーパーテストにより尋ねる。手書きのノートの持ち込みを許可する。評価基準の詳細は講義中に説明する。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
なし。		
履修上の心得・ルール		
極力休まないこと。ノートをとること。積極的に討論に参加すること。私語はしないこと。		